

第I部 総論 引用文献

著者	長沢 栄治
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
シリーズタイトル	地域研究シリーズ
シリーズ番号	10
雑誌名	中東--政治・社会
ページ	61-73
発行年	1991
出版者	アジア経済研究所
URL	http://doi.org/10.20561/00031125

〔引用文献〕

- [1] アジア経済研究所『イスラーム関係資料総合目録』1961年。
- [2] アジア経済研究所『中近東関係資料総合目録』1965年。
- [3] アジア経済研究所(小高正直・小串俊郎訳)『1963年10月第6回民族大会により採択された若干の理論的基礎(社会主義アラブ復興党民族指導部)』アジア経済研究所所内資料(調査研究部40-13)1965年。
- [4] アジア経済研究所(板垣雄三訳)『アラブ連合共和国・国民憲章』アジア経済研究所所内資料(調査研究部40-32)1966年。
- [5] アジア経済研究所編『現代東アラブの政治構造』調査レポート6, 1983年。
- [6] アフマド, J.アール(山田稔訳)『地の呪い』翻訳シリーズ28, アジア経済研究所, 1981年。
- [7] アル・ハキーム, タウフィーク(堀内勝訳)『田舎検事の手記』中東総合研究資料2, アジア経済研究所, 1975年。
- [8] アル・ハキーム, タウフィーク(堀内勝訳)『意識の回復——アブドゥナーセル体制への批判精神の回復——』中東総合研究資料6, アジア経済研究所, 1976年。
- [9] アル・バンナー, ハサン(佐伯幸隆訳)『光の方へ』アジア経済研究所所内資料(調査研究部44-1)1969年。
- [10] アル・バンナー, ハサン(池田修訳)『ムスリム同胞団の使命』アジア経済研究所所内資料(調査研究部44-8)1969年。
- [11] 安藤勝美「モロッコ憲法に関する一考察」(『アジア経済』第7巻第12号, 1966年12月, 4~19ページ)。
- [12] 池田明史「革命イランの対外論理——ホメイニ師の87年メッカ巡礼団宛てメッセージを手掛かりとして——」(『中東レビュー1988年版』アジア経済研究所, 1988年, 24~46ページ)。
- [13] 池田明史「軍産複合体——問題の所在——」([16]所収, 109~142ページ)。
- [14] 池田明史「現代イスラエルにおける宗教的尖鋭主義」(『中東レビュー1989年版』アジア経済研究所, 1989年, 58~83ページ)。
- [15] 池田明史「現代イスラエル外交とイデオロギ——リクードの『プラグマティズム』をめぐって——」(『中東レビュー1990年版』アジア経済研究所, 1990年, 54~76ページ)。
- [16] 池田明史編『現代イスラエル政治——イシューと展開——』研究双書372, アジア経済研究所, 1988年。
- [17] 池田明史編『中東和平と西岸・ガザ——占領地問題の行方——』研究双書

- 389, アジア経済研究所, 1990年。
- [18] 池田修「ナギーブ・マハフーズ『アルカルナック』に見られるナセル体制批判——現代アラブ文学の一動向——」(『中東総合研究』第3号, 1976年3月, 2~18ページ)。
- [19] 石井摩耶子「イギリスの植民支配の史的分析(その2)——1882年から1914年までのイギリスのエジプト支配について——」(『国際関係分科会第2分会——昭和41年度中間報告——』アジア経済研究所所内資料〈調査研究部42-9〉1967年, 7~67ページ)。
- [20] 泉沢久美子編『イスラーム・中東——雑誌記事索引1970~1985——』アジア経済研究所, 1986年。
- [21] 泉沢久美子編『アジア経済研究所所蔵 アラビア語文献目録——1988年12月末現在——』アジア経済研究所, 1989年。
- [22] 板垣雄三「アラブ連合共和国における近代化政策の現段階——社会主義・民主主義・協同主義について——」([197]所収, 211~283ページ)。
- [23] 板垣雄三「政治組織と指導理念」([182]所収, 111~138ページ)。
- [24] 板垣雄三「『アラブ社会主義』における Tabaqa (階級) 認識について」(『アジア・アフリカ言語文化研究』第1号, 1968年, 56~69ページ)。
- [25] 板垣雄三「1930年代のアラブ地域の民族主義と権力構造」(江口朴郎編『两大戦間期の国際政治とアジア・アフリカ』研究参考資料201, アジア経済研究所, 1973年, 147~169ページ)。
- [26] 板垣雄三「中東の政治変動の基底にあるもの——『10月戦争後』の再検討——」(『国際問題』No. 210, 1977年9月, 2~10ページ)。
- [27] 板垣雄三・黒田寿郎「特別対談: 日本の中東学——現状と展望——」(『現代中東の知的世界』第2号, 国際大学中東研究所, 1988年7月, 4~22ページ)。
- [28] 伊能武次「エジプトの対外政策形成における国内的背景」(『アジア経済』第20巻第2号, 1979年2月, 69~80ページ)。
- [29] 伊能武次「エジプトとパレスティナ問題 1936~48年」(『アジア経済』第23巻第12号, 1982年12月, 2~23ページ)。
- [30] 伊能武次「エジプトの政治変動試論——1970年代の政治抗争の一側面——」(『アジア経済』第25巻第2号, 1984年2月, 89~114ページ)。
- [31] 伊能武次「エジプトの政治変動——サダト体制と政治エリート——」([35]所収, 69~98ページ)。
- [32] 伊能武次「アラブ地域政治の新潮流」([214]所収, 30~52ページ)。
- [33] 伊能武次「イスラム化とコプト・ムスリム紛争——エジプト——」([215]所収, 137~164ページ)。
- [34] 伊能武次「エジプトの民主化と地方自治——制度論的覚書——」(『現代の中東』第6号, 1989年3月, 2~10ページ)。

- [35] 伊能武次編『アラブ世界の政治力学』研究双書336, アジア経済研究所, 1985年。
- [36] イブン・ハルドゥーン(田村実造訳編)『イブン・ハルドゥーンの「歴史序説」』(上)(下)アジア経済調査研究双書107, 108, アジア経済研究所, 1964, 65年。
- [37] 臼杵陽「パレスチナ・アラブ民族運動——1930年代のハーッジ・アミンおよびその他の政治グループの政治的役割——」([35]所収, 3~36ページ)。
- [38] 臼杵陽「委任統治期パレスチナにおける民族問題の展開」([149]所収, 3~100ページ)。
- [39] 浦野起央「中東の国際関係——分析の枠組みとその再検討のための一つの試み——」(『アジア経済』第21巻第3号, 1980年3月, 36~57ページ)。
- [40] 遠藤輝明「フランスの植民地政策とエジプト」([181]所収, 3~27ページ)。
- [41] オウエン(Owen, Roger)「イギリスの現代中東研究」(『中東総合研究』第5号, 1976年9月, 58~64ページ)。
- [42] オウエン(Owen, Roger), *The Middle East in the World Economy 1800-1914*, London, Methuen, 1981.
- [43] 大岩川和正「イスラエル農村の経済的性格——パレスチナにおけるユダヤ人入植過程研究の視点から——」(I)(II)(『アジア経済』第7巻第1号, 1966年1月, 17~32ページ; 第7巻第2号, 1966年2月, 58~74ページ)。
- [44] 大岩川和正「中東戦争とイスラエル」(I)(II)(『アジア経済』第8巻第10号, 1967年10月, 91~106ページ; 第8巻第11号, 1967年11月, 120~136ページ)。
- [45] 大岩川和正「現代イスラエル研究の諸問題」(『オリент』第12巻第1・2号, 1970年10月, 149~164ページ)。
- [46] 大岩川和正「イスラエルのユダヤ人入植組織に関する一考察」(滝川勉・斎藤仁編『アジアの農業協同組合』研究双書209, アジア経済研究所, 1973年, 269~312ページ)。
- [47] 大岩川和正「イスラエルの政治変動に関する基本的視点」(『中東総合研究』第2号, 1975年12月, 53~60ページ)。
- [48] 大岩川和正「イスラエルの現状を見て」(『中東総合研究』第8号, 1977年6月, 2~11ページ)。
- [49] 大岩川和正『現代イスラエルの社会経済構造——パレスチナにおけるユダヤ人入植村の研究——』東京大学出版会, 1983年。
- [50] オーダ・ムハンマド(池田修・磯崎定基訳)『失われた意識——タウフィーク・アル・ハキーム「意識の回復」への批判——』中東総合研究資料7, アジア経済研究所, 1977年)。
- [51] 大塚和夫『異文化としてのイスラーム——社会人類学的視点から——』同文館, 1989年。

- [52] 大野盛雄『イラン日記——疎外と孤独の民衆——』日本放送出版協会, 1985年。
- [53] 大野盛雄『イラン農民25年のドラマ』日本放送出版協会, 1990年。
- [54] 大野盛雄編『イラン革命と一日本企業の対応』アジア経済研究所所内資料(調査研究部55-4) 1981年。
- [55] 大野盛雄編『イラン革命考察のために』研究双書307, アジア経済研究所, 1982年。
- [56] 小口偉一「現代イスラム研究の問題——西アジア特集によせて——」(『東洋文化』第29号, 1960年3月, 1~8ページ)。
- [57] 加賀谷寛『現代イスラムの総合研究(1)』アジア経済研究所所内資料(調査研究部42-1) 1967年。
- [58] 加賀谷寛『現代イスラムの総合研究(2)』アジア経済研究所所内資料(調査研究部42-45) 1968年。
- [59] 鹿島正裕「エジプト国家論の展開」(日本政治学会編『第三世界の政治発展』岩波書店, 1988年, 69~86ページ)。
- [60] 加藤博「近代エジプト農村研究のためのノート」(『東洋文化』第63号, 1983年3月, 211~236ページ)。
- [61] 加藤博「アブー・スィネータ村醜聞——一九世紀中葉エジプト・村落有力者層の権力基盤——」(『東洋文化研究所紀要』第99冊, 1986年2月, 153~245ページ)。
- [62] 加藤博「近代エジプトの農民運動についての覚書——農民運動から見た近代エジプト社会の変容過程——」([149]所収, 261~297ページ)。
- [63] 加納弘勝「イスラムの生産都市ブハラ」([183]所収, 247~262ページ)。
- [64] 加納弘勝「テヘランの発展と社会変化」(『アジア経済』第20巻第1号, 1979年1月, 36~65ページ)。
- [65] 加納弘勝「現代イランにおける地方都市の変容——『停滞型』都市ハマダーンの事例——」(『アジア経済』第21巻第1号, 1980年1月, 20~42ページ)。
- [66] 加納弘勝『イラン社会を解剖する』東京新聞出版局, 1981年。
- [67] 加納弘勝「革命下における少数民族——クルドの抵抗の記録——」([55]所収, 77~109ページ)。
- [68] 加納弘勝「中東——石油の富と新たな国際的人口移動——」(柴田徳衛・加納弘勝編『第三世界の人口移動と都市化』アジアを見る眼62, アジア経済研究所, 1983年, 126~154ページ)。
- [69] 加納弘勝「アンカラのスラム——社会経済危機と自暴自棄型の社会的態度——」(『アジア経済』第25巻第4号, 1984年4月, 40~62ページ)。
- [70] 加納弘勝「中東諸国——女性の社会進出と四つの対応——」(森健・水野順子編『開発政策と女子労働』経済協力シリーズ120, アジア経済研究所, 1985年,

- 13～43ページ)。
- [71] 加納弘勝「中東諸国における住宅問題と都市政策」(柴田徳衛・加納弘勝編『第三世界の都市問題』研究双書341, アジア経済研究所, 1986年, 187～217ページ)。
- [72] 加納弘勝「中東イスラム世界の社会学——ねらいと構想——」(『現代の中東』第5号, 1988年9月, 16～27ページ)。
- [73] 加納弘勝『中東イスラム世界の社会学——第三世界における都市と文化と社会統合——』有信堂, 1989年。
- [74] 加納弘勝編『中東の民衆と社会意識』研究双書405, アジア経済研究所, 1991年。
- [75] 加納弘勝・R.ケレシュ『トルコの都市と社会意識』研究双書402, アジア経済研究所, 1990年。
- [76] 上岡弘二「イランの民衆のイスラムと社会意識」([74]所収, 43～83ページ)。
- [77] 鴨沢巖「国家資本主義的発展の道」([216]所収, 99～125ページ)。
- [78] 川本和孝「キッシンジャーとロジャーズ——米中東政策1969-73——」(『中東総合研究』第7号, 1977年3月, 38～55ページ)。
- [79] ギブ, ハミルトン (Gibb, Hamilton and Harold Bowen), *Islamic Society and the West*, London, Oxford University Press, 1957.
- [80] ギブ, ハミルトン (林武訳・解説)「地域研究の再検討」(『みすず』第82号, 1966年3月, 69～79ページ; 第83号, 1966年4月, 57～70ページ)。Gibb, Hamilton, *Area Studies Reconsidered*, London, School of Oriental and African Studies, University of London, 1963.
- [81] 木村喜博「エジプトの農地改革前の農村社会の構造」(『共同体的構成の変容——昭和45年度中間報告——』アジア経済研究所所内資料〈調査研究部46-2〉1971年, 111～214ページ)。
- [82] 木村喜博「エジプトの農業——第1次農地改革について——」(糸賀昌昭編『中東の経済発展II——エジプト——』研究参考資料197, アジア経済研究所, 1973年, 1～74ページ)。
- [83] 木村喜博「農地改革前におけるエジプト農村社会の構造」(川島武宜・住谷一彦編『共同体的比較史的研究』研究参考資料209, アジア経済研究所, 1973年, 267～313ページ)。
- [84] 木村喜博「エジプトの農村——ナグウ・タラハーンの家族構造——」(『アジア経済』第16巻第10号, 1975年10月, 76～87ページ)。
- [85] 木村喜博「エジプトにおける農村労働力の一形態——シェリーフ・イズバの社会経済的関係——」(『アジア経済』第18巻第6・7号, 1977年7月, 155～172ページ)。

- [86] 木村喜博「エジプト農民の生活実態——農村社会の理解のために——」(『中東総合研究』第9号, 1977年9月, 32~38ページ)。
- [87] 木村喜博「現代シリアの社会変動と政治権力構造——政治エリートの交替(1946~63年)——」(『アジア経済』第22巻第8号, 1981年8月, 2~25ページ)。
- [88] 木村喜博「東アラブ現代史の一視角——イデオロギー潮流の基礎構造——」(『現代の中東』第1号, 1986年9月, 14~29ページ)。
- [89] 木村喜博『東アラブ国家形成の研究』研究双書354, アジア経済研究所, 1987年。
- [90] 木村喜博「パレスチナの歴史地理——中東問題理解のために——」(『現代の中東』第8号, 1990年3月, 2~26ページ)。
- [91] 熊田亨「アラブ連合の成立——ナセルの『独裁』の基盤について——」([181]所収, 73~110ページ)。
- [92] 黒木英充「近現代レバノン社会におけるパトロン・クライアント関係」([149]所収, 299~335ページ)。
- [93] 小杉泰「レバノン——宗派的政治意識と教育制度——」([214]所収, 54~81ページ)。
- [94] 小杉泰『『アル=マナール』派のイスラーム国家論』(『国際大学大学院国際関係学研究科紀要』第3号, 1985年7月, 35~53ページ)。
- [95] 小林元『中東の近代化とイスラム教』アジア経済研究シリーズ21, アジア経済研究所, 1961年。
- [96] 小山茂樹『中東の窓 レバノン』アジアを見る眼42, アジア経済研究所, 1972年。
- [97] サイド, エドワード(板垣雄三・杉田英明監修, 今沢紀子訳)『オリエンタリズム』平凡社, 1986年。Said, Edward W., *Orientalism*, New York, Georges Borchardt Inc., 1978.
- [98] 齊藤孝『ヨーロッパの1930年代』岩波書店, 1990年。
- [99] 酒井啓子「バアス党支配下のイラクにおける国家統合」([112]所収, 71~99ページ)。
- [100] 酒井啓子「現代イラクの社会意識」([74]所収, 147~160ページ)。
- [101] 佐藤克彦「エジプトの都市化と人口移動」(河邊宏編『発展途上国の都市システム』研究双書367, アジア経済研究所, 1988年, 117~146ページ)。
- [102] 佐藤寛「イエメン統合と地域大国, 超大国」([112]所収, 117~141ページ)。
- [103] 佐藤寛「サウジアラビア——近代化と正統性——」([214]所収, 138~162ページ)。
- [104] 佐藤寛「サレハ政権の正統性」(『中東レビュー1989年版』アジア経済研究

- 所, 1989年, 131~167ページ)。
- [105] 佐藤寛「南北イエメン統合への動き」(『中東レビュー1990年版』アジア経済研究所, 1990年, 97~122ページ)。
- [106] 清水洋 (Shimizu, Hiroshi), *Anglo-Japanese Trade Rivalry in the Middle East in the Inter-war Period*, London, Ithaca Press, 1986.
- [107] 清水学「キャンプ・デービッド合意体制」([112]所収, 27~50ページ)。
- [108] 清水学「ムバーラク体制の政治経済学」(『現代の中東』第3号, 1987年9月, 2~20ページ)。
- [109] 清水学「緊迫する湾岸情勢とパレスチナの『蜂起』」(『中東レビュー1988年版』アジア経済研究所, 1988年, 2~22ページ)。
- [110] 清水学「『インティファダ』と中東和平問題の新展開」(『中東レビュー1989年版』アジア経済研究所, 1989年, 2~16ページ)。
- [111] 清水学「米ソ新協調体制のなかの中東」(『中東レビュー1990年版』アジア経済研究所, 1990年, 2~20ページ)。
- [112] 清水学編『変貌する中東の政治構造——オイルショック後の10年——』研究双書330, アジア経済研究所, 1985年。
- [113] シャリアティー, アリー(松本耿郎訳)『革命的自己形成』アジア経済研究所所内資料(経済開発分析プロジェクト・チーム56-1)1981年。
- [114] シャルカーウィー, アブデル・ラフマーン(奴田原睦明訳)『エジプトの農村社会——原書名「大地」——』(I)(II)(III)中東総合研究資料8, 9, 10, アジア経済研究所, 1977, 78年。
- [115] 鈴木董「トルコ——発展と連合政治の危機——」([214]所収, 188~205ページ)。
- [116] 鈴木弘明編『エジプト経済と労働移動』研究双書353, アジア経済研究所, 1986年。
- [117] 高木規矩郎「レバノン紛争と宗教勢力」([35]所収, 99~130ページ)。
- [118] 高橋和夫「クルドの問題とイラン・イラク関係1972-75年——イラクにおけるクルドの反乱を中心として——」(『アジア経済』第23巻第1号, 1982年1月, 17~34ページ)。
- [119] 高橋和夫「『イスラム』革命とクルド自治運動——イラン——」([55]所収, 111~136ページ)。
- [120] 滝田真砂子「サウジアラビアの外交政策——アラブ地域内を中心として——」(『中東総合研究』第11号, 1978年3月, 115~124ページ)。
- [121] 店田廣文「エジプトのスラム」(『アジア経済』第25巻第4号, 1984年4月, 142~155ページ)。
- [122] 津田元一郎『アフガニスタンとイラン——人とところ——』アジアを見る眼52, アジア経済研究所, 1977年。

- [123] 内藤正典「シリア——都市とオアシスの生態系——」([214]所収, 84~112ページ)。
- [124] 内藤正典「シリアにおける都市システム研究のパスpekティブ」(河邊宏編『発展途上国の都市システム』研究双書367, アジア経済研究所, 1988年, 51~81ページ)。
- [125] 中岡三益「アラブ連合共和国の農地改革をめぐる理論的諸問題」(『東洋文化』第21号, 1960年3月, 48~70ページ)。
- [126] 中岡三益「UARの農地改革の評価作業に関する覚え書」(『中近東産業構造委員会報告』アジア経済研究所所内資料<昭37産業構造5-1>1963年, 83~121ページ)。
- [127] 中岡三益「カフル・ル・バグル週市 (Suq Kafr al-Bagur) について」(『イスラム世界』第1号, 1963年11月, 52~58ページ)。
- [128] 中岡三益「現代アラブ地域研究への接近」(『オリエント』第11巻第1・2号, 1968年1月, 131~147ページ)。
- [129] 中岡三益「19世紀エジプトにおけるシャイフ層の社会経済的地位」(『後進国経済発展の史的研究——昭和43年度中間報告(II)——』アジア経済研究所所内資料<調査研究部44-21>1969年, 43~76ページ)。
- [130] 中岡三益「エジプトにおける伝統社会と西欧の衝撃」(『後進国経済発展の史的研究——昭和44年度中間報告(II)——』アジア経済研究所所内資料<調査研究部45-3>1970年, 89~137ページ)。
- [131] 中岡三益「エジプトにおける共同体——財産占取の形態と主体に関するノート——」(川島武宜・住谷彦彦編『共同体の比較史的研究』研究参考資料209, アジア経済研究所, 1973年, 257~266ページ)。
- [132] 中岡三益「後進資本主義の一類型・モノカルチュアの産業構造について——エジプトの歴史的経験に照らして——」(大塚久雄編『後進資本主義の展開過程』研究双書216, アジア経済研究所, 1973年, 113~137ページ)。
- [133] 中岡三益『現代エジプト論』アジアを見る眼56, アジア経済研究所, 1979年。
- [134] 中岡三益「日本人のアラブ認識」([133]所収, 2~31ページ)。
- [135] 中岡三益「ヨーロッパにおける現代アラブ研究」([133]所収, 32~45ページ)。
- [136] 中岡三益「現代アラブの社会的危機」([133]所収, 74~90ページ)。
- [137] 中岡三益「民族運動における本源的なもの」([133]所収, 121~158ページ)。
- [138] 中岡三益「激動する民族と社会——帰属意識の危機と緊張の構造——」(矢島文夫編『アフロアジアの民族と文化』山川出版社, 1985年, 344~366ページ)。
- [139] 中岡三益「福地源一郎のエジプト混合裁判所調査——近代日本・アラブ関係

- の一齣——」(『国際商科大学論叢』第32号, 1985年, 45~60ページ)。
- [140] 中岡三益「アイデンティティの多層化と収斂の構造——クウェイト——」([215]所収, 83~109ページ)。
- [141] 中岡三益, “Japanese Research on the Mixed Courts of Egypt in the Earlier Part of the Meiji Period in Connection with the Revision of the 1858 Treaties,” *The Journal of Sophia Asian Studies*, No. 6, 1988, pp. 11-47.
- [142] 中岡三益『『社会科学と地域研究』シンポジウム所感』(石澤良昭・水野一・宇多文雄・村井吉敬編『地域研究(2)——カリキュラムと地域研究方法論——』上智大学アジア文化研究所, 1989年, 89~137ページ)。
- [143] 中岡三益・板垣雄三『アラブの現代史』東洋経済新報社, 1959年。
- [144] 中田吉信『回帰民族の諸問題』アジアを見る眼40, アジア経済研究所, 1971年。
- [145] 長沢栄治「エジプトの移動労働者」(『アジア経済』第21巻第11号, 1980年11月, 57~75ページ)。
- [146] 長沢栄治「エジプトにおける家族関係の近代化」(『現代の中東』第2号, 1987年3月, 14~32ページ)。
- [147] 長沢栄治「エジプト資本主義論争の構図と背景」([149]所収, 101~257ページ)。
- [148] 長沢栄治「都市化と社会的連帯——上エジプト農村とアレキサンドリア市港湾労働者社会の事例比較——」([74]所収, 211~262ページ)。
- [149] 長沢栄治編『東アラブ社会変容の構図』研究双書392, アジア経済研究所, 1990年。
- [150] 永田雄三「トルコにおける前資本主義社会と『近代化』——後進資本主義の担い手層をめぐる——」(大塚久雄編『後進資本主義の展開過程』研究双書216, アジア経済研究所, 1973年, 139~187ページ)。
- [151] 長場紘「トルコ人移民労働者の実態」(『アジア経済』第16巻第1号, 1975年1月, 69~79ページ)。
- [152] 長場紘『中東における労働市場分析——労働力の移動を中心として——』中東協力センター, 1985年。
- [153] 長場紘「現代トルコにおけるイスラム復興の諸相」(『現代の中東』第9号, 1990年9月, 6~25ページ)。
- [154] 長場紘編『中東—北アフリカ関係雑誌記事索引』アジア経済研究所, 1978年。
- [155] 夏目高男「サウディ・アラビアの建国とアブドルアジーズ——クウェイト関係を中心として——」([35]所収, 37~68ページ)。
- [156] 日本アラブ関係国際共同研究国内委員会編『日本におけるアラブ研究文献目録 1875-1979』アジア経済出版会, 1981年。

- [157] 奴田原睦明「エジプトの農村から——現代エジプト農村小説を参照して——」(『中東総合研究』第6号, 1976年12月, 18~31ページ)。
- [158] 野原四郎「回教研究の役割」(『回教圏』第6巻第1号, 1941年1月, 8~13ページ〈復刻版, ヒブリオ, 1986年〉)。
- [159] 野原四郎・蒲生礼一「回教圏研究所の思い出」(『東洋文化』第38号, 1965年3月, 85~100ページ)。
- [160] バーク (Burke, Edmund III), "Islam and Social Movements: Methodological Reflections," Burke, Edmund III and Ira M. Lapidus eds., *Islam, Politics, and Social Movements*, Berkeley, University of California Press, 1988, pp. 17-35.
- [161] バインダー (Binder, Leonard), "Area Studies: A Critical Reassessment," Binder, Leonard ed., *The Study of the Middle East: Research and Scholarship in the Humanities and the Social Sciences*, New York, John Wiley & Sons, 1986, pp. 1-28.
- [162] 間寧「トルコ政党政治の特徴」(『アジア経済』第28巻第9号, 1987年9月, 40~51ページ)。
- [163] バタートゥー (Batatu, Hanna), *The Old Social Classes and the Revolutionary Movements of Iraq*, Princeton, Princeton University Press, 1978.
- [164] 埴治夫「バアス党と宗教」([182]所収, 31~62ページ)。
- [165] バニー・サドル, アホルハッサン (松本耿郎訳)『イランにおける政治的諸問題とそのイスラム的解決法』アジア経済研究所所内資料(経済開発分析プロジェクト・チーム55-1)1980年。
- [166] 林武「バアス党に関する覚え書き——復興アラブ社会党Ba'ath al-Arabi——」(『アジア経済』第1巻第4号, 1960年4月, 53~60ページ)。
- [167] 林武『アラブ社会主義』(試論)——その思想的根柢と経済政策——(『中近東産業構造委員会報告』アジア経済研究所所内資料〈昭37産業構造5-1〉1963年, 1~82ページ)。
- [168] 林武『現代地域研究論』アジア経済研究所所内資料(調査研究部43-48)1969年。
- [169] 林武『中東雑記』アジアを見る眼45, アジア経済研究所, 1973年。
- [170] 林武『現代アラブの政治と社会』研究双書221, アジア経済研究所, 1974年。
- [171] 林武「現代レバノンの形成——オスマン帝国治下のレバノン——」([170]所収, 3~21ページ)。
- [172] 林武「アラブ復興社会党——バアス党にかんするノート——」([170]所収, 59~145ページ)。
- [173] 林武「都市化と人間類型——カイロ市井人の理想像——」([170]所収,

- 147~176ページ)。
- [174] 林武「アラブ社会主義の体制——その思想的根底と経済政策——」([170]所収, 243~302ページ)。
- [175] 林武「アラブの民族主義」([170]所収, 303~337ページ)。
- [176] 林武「イギリスのイスラーム研究——ヨーロッパ東洋学論の試み——」([170]所収, 339~351ページ)。
- [177] 林武「イスラーム社会の変動——都市社会学的接近の覚書——」([170]所収, 352~360ページ)。
- [178] 林武「解説」(ハミルトン・ギブ <加賀谷寛・内記良一・中岡三益・林武訳>『イスラーム文明史』みすず書房, 1968年 <1975年補筆>)。
- [179] 林武「ベイルート誌」([183]所収, 263~284ページ)。
- [180] 林武「宗派政治体制とエスニック関係の構造変化——レバノン——」([215]所収, 31~56ページ)。
- [181] 林武編『中東の社会変動』研究参考資料75, アジア経済研究所, 1965年。
- [182] 林武編『現代イスラームの総合研究——昭和44年度中間報告——』(I)(II)アジア経済研究所所内資料(調査研究部45-1, 45-7)1970年。
- [183] 林武編『発展途上国の都市化』研究双書236, アジア経済研究所, 1976年。
- [184] 林武ほか「シンポジウム『アジア的生産様式論』をめぐる」(I)(II)(III)、『アジア経済』第14巻第5号, 1973年5月, 2~32ページ; 第14巻第6号, 1973年6月, 2~34ページ; 第14巻第8号, 1973年8月, 2~50ページ)。
- [185] 林瑞枝「アルジェリアの独立と国籍問題」(I)(II)、『アジア経済』第22巻第2号, 1981年2月, 2~19ページ; 第22巻第3号, 1981年3月, 60~79ページ)。
- [186] 原口武彦『ブルギバ政権の基本的性格』アジア経済研究所所内資料(調査研究部40-1)1965年。
- [187] 東アラブにおける社会変容の諸側面研究会編『文献解題 東アラブ近現代史研究』アジア経済研究所, 1989年。
- [188] 深町宏樹・清水学「アフガニスタン78年4月政変——その歴史的背景——」、『アジア経済』第19巻第10号, 1978年10月, 66~79ページ)。
- [189] 藤田進「中東諸国体制とアラブの民族運動」、『アジア経済』第23巻第7号, 1982年7月, 106~118ページ)。
- [190] 福田邦夫「フランス・マグレブ間における労働移動——アルジェリアにおける労働力存在形態——」、『アジア経済』第23巻第4号, 1982年4月, 80~93ページ)。
- [191] 福田邦夫「マグレブ統合をめぐる課題」、『中東レビュー1990年版』アジア経済研究所, 1990年, 170~203ページ)。
- [192] ホーラーニー (Hourani, Albert), *Arabic Thought in the Liberal Age*, London, Oxford University Press, 1962.

- [193] 堀侑「『アラブの頭脳流出』セミナー（バイルート：国連西アジア経済委員会主催）に出席して」（『アジア経済』第21巻第7号，1980年7月，124～128ページ）。
- [194] 堀内正樹「モロッコ——出稼ぎの構図——」（宮治一雄編『中東——国境を越える経済——』アジアを見る眼79，アジア経済研究所，1989年，156～179ページ）。
- [195] 堀内勝「現代エジプトの文学と政治——アル・ハキームの『スルタンの困惑』をめぐって——」（『中東総合研究』第5号，1976年9月，65～74ページ）。
- [196] 前嶋信次『アラビア学への途——わが人生のシルクロード——』日本放送出版協会，1982年。
- [197] 前嶋信次編『アラブ諸国の社会経済機構』調査研究双書12，アジア経済研究所，1961年。
- [198] マフフーズ，ナギーブ（埴治夫訳）『渡り鳥と秋』中東総合研究資料3，アジア経済研究所，1976年。
- [199] マフフーズ，ナギーブ（池田修訳）『アルカルナック』アジア経済研究所所内資料（調査研究部53-1）1978年。
- [200] マルコス，イリヤス（田村秀治・内記良一訳）『アラブ諸国共産党史』（I）(II)アジア経済研究所所内資料（調査研究部42-8，43-18）1967，68年。
- [201] 丸山直起「イスラエルのアラブ人——民族主義とその限界——」（『中東総合研究』第5号，1976年9月，25～36ページ）。
- [202] 丸山直起「リクードの成立」（『中東総合研究』第10号，1977年12月，29～38ページ）。
- [203] 丸山直起「アラブ・イスラエル紛争の構造変化と中東の相互依存」（嶋武彦・山本吉宣編『相互依存の国際政治学』有信堂，1979年，119～148ページ）。
- [204] 丸山直起「移民の統合・紛争とアラブ・マイノリティ——イスラエル——」（[214]所収，57～82ページ）。
- [205] 三木亘『地域研究と世界認識——第二次大戦後日本における地域研究の思想——』アジア経済研究所所内資料（調査研究部43-14）1968年。
- [206] 宮治一雄「マグレブの民族運動とフランスの人民戦線」（江口朴郎編『両大戦間期の国際政治とアジア・アフリカ』研究参考資料201，アジア経済研究所，1973年，171～241ページ）。
- [207] 宮治一雄「両大戦間期マグレブにおける労働力問題」（山田秀雄編『アフリカ植民地における資本と労働』研究参考資料236，アジア経済研究所，1975年，159～206ページ）。
- [208] 宮治一雄『アルジェリア社会主義と自主管理農場』研究参考資料267，アジア経済研究所，1978年。
- [209] 宮治一雄『アフリカ現代史V 北アフリカ』山川出版社，1978年。

- [210] 宮治一雄「80年代の中東システム」(『現代の中東』第1号, 1986年9月, 2~13ページ)。
- [211] 宮治一雄「中東のエスニック紛争と統合の展望——総論——」([214]所収, 3~30ページ)。
- [212] 宮治一雄「80年代の中東システム(II)——マグレブと五つの地域システム——」(『現代の中東』第5号, 1988年3月, 2~15ページ)。
- [213] 宮治一雄「マグレブ——地域統合と三つの要因——」(宮治一雄編『中東——国境を越える経済——』アジアを見る眼79, アジア経済研究所, 1989年, 182~204ページ)。
- [214] 宮治一雄編『中東の開発と統合』アジアを見る眼67, アジア経済研究所, 1985年。
- [215] 宮治一雄編『中東のエスニシティ——紛争と統合——』研究双書358, アジア経済研究所, 1987年。
- [216] 護雅夫編『トルコの社会と経済』研究参考資料179, アジア経済研究所, 1971年。
- [217] 山口博一『地域研究論』地域研究シリーズ1, アジア経済研究所, 1991年。
- [218] 山根学「アラブ社会主義に関する研究——エジプトの『アラブ社会主義論』について——」(『中東総合研究』第6号, 1976年12月, 32~49ページ)。
- [219] 山根学「ムスリム同朋団——植民地支配下のエジプトの政治過程——」(『中東総合研究』第11号, 1978年3月, 97~114ページ)。
- [220] 山根学『現代エジプトの発展構造——ナセルの時代——』晃陽書房, 1986年。
- [221] 湯川武「アメリカにおける中東研究の動向——東洋学を中心にして——」(『史学雑誌』第87巻第12号, 1978年12月, 39~48ページ)。
- [222] ラムトン (Lambton, Ann K.S.), *Landlord and Peasant in Persia: A Study of Land Tenure and Land Revenue Administration*, London, Oxford University Press, 1969 (岡崎正孝訳『ペルシアの地主と農民』岩波書店, 1976年)。
- [223] ランバート (Lambert, Richard D.), *Language and Area Studies Review*, Philadelphia, The American Academy of Political and Social Science, 1973.
- [224] レイド (Reid, Donald M.), "Arabic Thought in the Liberal Age Twenty Years After," *International Journal of Middle East Studies*, No. 14, 1982, pp. 541-557.
- [225] ワリーウッラー, シャー (加賀谷寛訳・解説)『イスラームの宗教思想にみられる社会組織論』アジア経済研究所所内資料 (調査研究部44-16) 1969年。